

H I R A T S U K A C O M M U N I T Y



ひらつか地域活動の 仕組みづくり

note

これからの地域づくりを考えるヒント集



ひらつか地域活動の仕組みづくりnote とは？

私たちが住む平塚市の人口は2010年代後半から減少しはじめ、世帯あたりの人員が減る核家族化が進み、本格的な高齢化が進む中で後期高齢者も増加しています。そこへコロナ禍により、これまで行われてきた地域の活動や行事などの自粛を余儀なくされたことで、地域活動の意義や地域のつながりを再考するきっかけとなりました。

そこで、地域の人たちがこれからの時代を見据えつつ、自分たちの地域・まちの在り方を共に考え、共に行動し、安全・安心、健康・元気につながる様々な活動に取り組むヒントになるように「ひらつか地域活動の仕組みづくりnote」を作成しました。

地域活動を進めるにあたっては、歴史や環境、関わる人々など背景は様々であり、その方法に正解はありません。このnoteがこれからの地域活動の参考になれば幸いです。

目次

01 地域活動を取り巻く変化と課題

01 ① 人口の変化と見通し

02 ② 地域活動の変化と課題

05 コラム 1 「地域・まちづくりはひとづくりというけれど・・・」

06 これからの地域活動のポイント

06 ① 地域・まちづくりと地域活動

10 ② 地域活動の仕組みの基本とポイント

14 新しい仕組みづくりへのチャレンジ紹介

14 └ (1) 世代を超え、想いを一つに行動していこう！(横内地区)

21 └ (2) 自分達がやりたいことを、みんなで工夫して！(LaLa湘南平塚コモンズ自治会)

28 コラム 2 「国が推進する新しい地域運営の組織って・・・」

29 これからの仕組みづくりの5つのヒント

30 ヒント A 地域の声聞き・活かしていく仕組み

31 ヒント B 活動の負担を軽減する仕組み

32 ヒント C やりがいを感じられる仕組み

33 ヒント D 次の時代の担い手が参画する仕組み

34 ヒント E 多様な主体が共に工夫していく仕組み

35 地域活動の仕組みづくりヒント事例

60 これからの地域・まちづくりの共創にむけて

64 参考資料



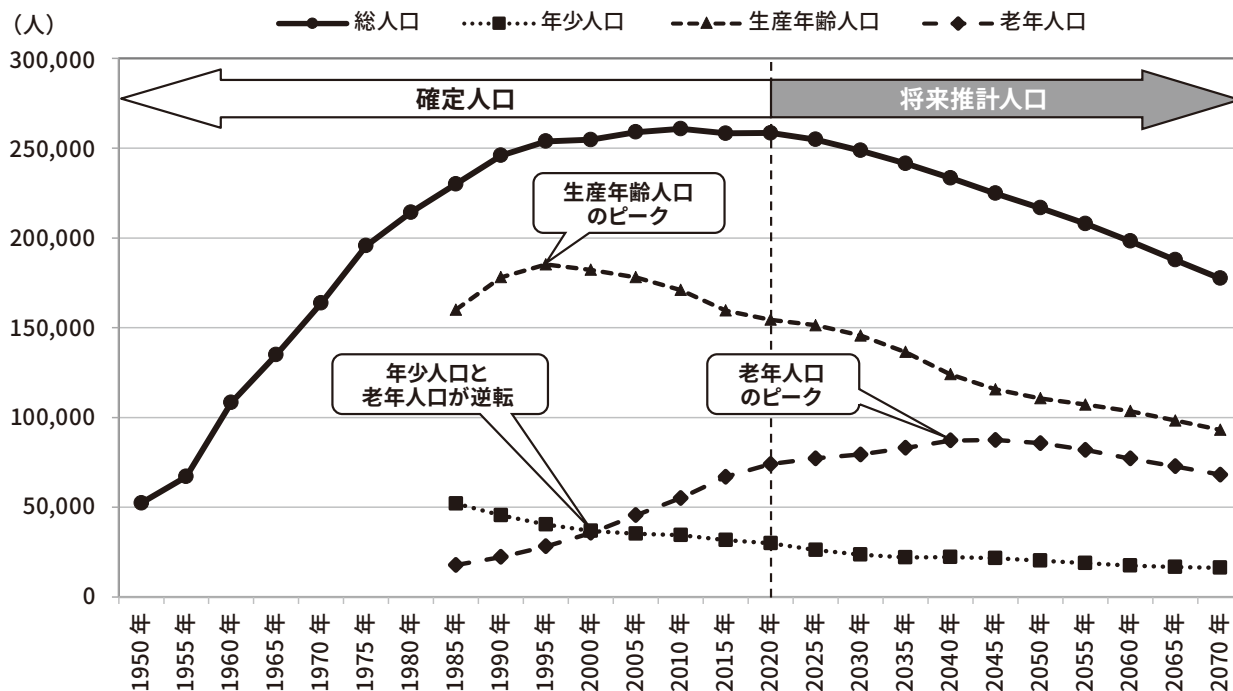
地域活動を取り巻く変化と課題

1

人口の変化と見通し

- 平塚市の人口（2020年25.7万人）は、2010年をピークに減少傾向に転じており、近年、転入超過による社会増が続いていますが、20年後の2040年頃には1985年頃と同じ23万人規模になると推計されています。
- 年齢3区分別にみると、生産年齢人口（15歳から64歳までの人口）は1995年をピークに減少傾向に転じる一方で、老年人口（65歳以上の人口）は2002年に年少人口（15歳未満の人口）を上回り、2040年頃には高齢者の総数がピークに達すると見込まれます。
- また、核家族化も進み、2020年にはすでに全世帯の35%が単独世帯です。高齢者のみの世帯もすでに22%を超え、2030年には全世帯の1/4になると推計されています。

本市の人口の推移



【備考1】2020年までは、総務省「国勢調査」を基に作成

【備考2】2025年からは、本市独自推計を基に作成

出所：平塚市「平塚市人口ビジョン（2024年2月改訂）」

■ 地域活動の変化

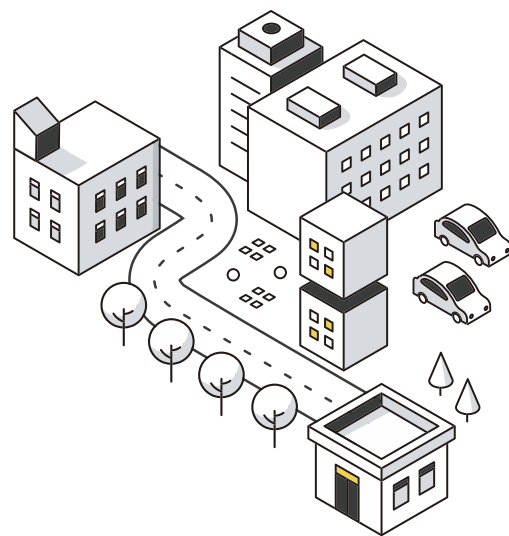
地域は様々な集団（コミュニティ）の集合体で成立しています。古くは集落の中心であったお寺や神社を基盤としたつながりから、農業を中心とした共有財産を守る組織が生まれ、社会経済の変化とともに商業や生活支援など産業活動を基盤とするつながりの組織ができ、地域の人たちとともに暮らしの安全を守り、活力を育んできました。

平塚市では第2次世界大戦後の復興まちづくりが進み、人口増加に伴い市街地が拡大していく中で、新しい自治会・町内会も続々と生まれはじめ、須賀公民館を皮切り（1957年）に1980年代までにほとんどの各地区公民館が開設されました。

社会教育を担う公民館は、1960年代の健康・スポーツ振興の活動、環境美化、青少年健全育成の関連団体の発足と相まって、地域交流、生涯学習等、様々な地域活動の拠点として大きな役割を果たしていきました。

平塚市の25ある地区公民館は、概ね小学校区に一つ立地しており、他都市に類をみない特徴といえます。

1970年代に入り、自治会・町内会の相互連絡と活動強化を目的とした平塚市自治会連絡協議会が発足（1973年）し、地区公民館と同様に概ね現在の小学校区に一つ、27の連合自治会が組織化されました。



その後も市街地でのマンションの建設や、子育て世代が増えていく中で、バブル期の1990年代前後には人々の意識が住環境や暮らしの充実に向き始め、ごみ減量、防犯防災に関連する団体が相次いで発足していきました。

そして2000年代に入ると、家族の中だけでは介護がしにくい状況が大きな社会課題になりはじめ、地域で支え合う仕組みの構築と相まって、町内福祉村をはじめ、地域福祉・地域ケアの関連団体等の活動団体が生まれてきました。

また、東日本大震災や各地での豪雨災害など、甚大な災害を身近に感じるようになり、防災を担う市民活動団体の発足や企業の協力、自主防災組織の設立や緊急時の支え合い、共助の仕組みづくりが進められています。

主要地域活動・団体の推移

年代	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020
人口／世帯数 (万)	5.2/1.1	10.7/2.3	15.9/4.0	21.2/6.1	24.3/8.0	25.4/9.3	26.0/10.5	25.8/11.2
主要イベント	1951 七夕まつり スタート ※1956～57 町村合併	1969 中央図書館 開設	1973 駅ビルラスカ 開業	1985 平塚球場 開設	1991 総合公園 開園	2003 市民活動 センター 開業	2010 花菜ガーデン 開園	2022 文化芸術 ホール オープン
地域自治	1952 自治会 組織化		1973 平塚市自治会 連絡協議会 発足			2006 自治基本 条例制定 2008 まちづくり 条例制定		
公民館	1957 須賀公民館 開設			1982 中央公民館 開設				
		12地区 公民館開設	6地区 公民館開設	4地区 公民館開設	2地区 公民館開設			
協働活動				1985 平塚市・ 東海大学の 包括連携 協定	1998 NPO法人 制度成立	2002 市民活動 推進条例 制定	2018 平塚市協働の まちづくり 基金 (市民活動 推進補助金)	
健康推進活動	1958 食生活改善 推進委員会 発足	1962 体育振興会 発足						
環境・美化活動		1965 美化推進 委員会		1988 ごみ減量化 推進委員会 発足				
青少年健全育成		1968 青少年 指導員設置 要綱(旧)		1980 青少年 指導員設置 要綱(新)	1997 地域教育力 ネットワーク 発足			
福祉支援						2009 町内福祉村 発足	2013 地域包括 支援センター 発足	
防災対策							2012 地震防災マップ 津波ハザード マップ発行	2021 ひらつか防災 ガイドブック 発行

※平塚市の情報提供により、まとめました

■ 地域活動の課題

2000年以降の高齢化の進行により、生産年齢人口が減少し、企業活動においても定年延長や、定年後の再雇用の拡大等、前期高齢者が日常的に就労することが増えたことで、**これまで地域活動をけん引してきた世代が地域活動に携わる時間や役員のなり手候補が減少しています。**

また、地域活動デビューの間でもあるPTAについても核家族化と共働き世帯が大多数を占めるようになり、活動の負担感から積極的に関わる人が減少していく傾向にあるため、その後に地域活動団体の担い手になっていくというこれまでの図式は崩れつつあります。

加えて、コロナ禍による地域活動の自粛が、これまでの住民同士の**リアルでの対話や交流の機会を奪い、各種行事の縮小化を招いたことで、もともとあった地域のつながりや支え合いの“力”の弱体化を加速させていった**といえます。

.....

行政においてはこの間、高度経済成長期に整備された公共施設や社会基盤が更新時期を迎えている上、歳入が減少傾向であるのに対し、社会保障のための費用が大幅に増加しています。**さらに、昨今の公共サービスの多様化により、かつてのような行政対応がとりにくい面が見受けられます。**

地域活動に携わる役員の方々からは、行事や取り組みだけでなく、活動組織や団体の統合、選出される役員の削減などの要望も聞かれます。

このような大きな転換期の中で、今後の社会構造の変化を見据え、これまでの地域活動の内容や関わる担い手・体制、実施条件を前提にするのではなく、何のため、誰のための活動かについて、「行政」「事業者」「住民」で共有し、**それぞれの主体が得意な分野を活かし、協力しながら、“共に地域・まちづくりを進めていく”**必要があると考えます。



column 1



地域・まちづくりはひとづくりというけれど・・・



地域を動かす力、人を動かす力って何だろう？

- 💰 お金 → 暮らすうえで必要不可欠ですね
- 🌟 名誉 → 社会のために務めたこと、活動したことへの感謝は大切ですね
- 💖 愛 → 大切なひと、こと、ものへの思い(愛情)が行動になっていきますね

“きっかけ”が“つながり”に“きずな”に、そして“仕組み”に！

- きっかけ → 地域デビューでの楽しい出会い
- つながり → 出会いの繰り返しからのなかまづくりへ
- きずな → 認め合う、支え合う、助け合うなかまと活動の展開へ
- 仕組み → 持続性、組織性を持つ仕組みへ

四則演算でこれからの地域活動を考えてみよう！

- 引き算(－) → 住む人、役員が負担や疑問を感じる活動を見直す
- 足し算(＋) → 楽しく、参画したくなる活動へ変えていく
- 割り算(÷) → 運営は役員任せではなく、みんなで支え合い、助け合う
- 掛け算(×) → 色々な関係者の知恵と工夫で元気の持続性を創り出す